

次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

オーストラリアのローランド・ベイ・グラマー・スクールの五・六年生九人が、姉妹校の統合学院小学部を訪問し、在校生の家庭にホームステイで泊ることになった。父と祖母のナンと暮らす一人っ子のショーンのステイ先是三つ下の双子がいるミヤモト・ファミリー、家業は五代続く和菓子店である。学校のテキストでは「オカアサン」と習つたが、双子の「カズ」と「ユウ」が呼ぶのを聞くと「オトーチャン」としか聞こえない。「オトーチャン」は絶対に「オトウサン」のことだとショーンは思う。双子の二段ベッドのある部屋の床のフットンに寝ようとしたら、双子がもうりこんできて三人でカヌーを漕いでいるみたいになつて寝た。

次の朝目が覚めたら、フットンのカヌーは見事に壊れていた。爆弾で吹き飛ばされたみたいに、三人バラバラで床に転がつて寝ていた。体のあちこちが痛くて、足の先が冷たくなつていた。オカーチャンが来て、双子たちをすごい剣幕で叱りつけていた。そのうち、オトーチャンがやつて来て、おれたちを見るなり、手に持つて新聞を丸めると、

5 「カズ！」

「ユウ！」

「ショーンー！」

順番におれたちの頭を叩いた。「ボカッ」「パコッ」「ボコン」。大きな音はしたけど、紙だから全然痛くない。カズもユウも朝から頭を叩かれて大喜びで、子犬みたいに鼻水とよだれを垂らしてオトーチャンにまとまる。

10 わりついていた。こいつら、こんなことで大喜びするなんて、やっぱまだまだガキだなー、って思つたけど、カズとユウがめちゃめちゃ嬉しそうにオトーチャンにまとわりついて、オトーチャンが大笑いしながら双子たちのあちこちをボカボカ新聞のバットで叩いているのを見ていると、おれだけ取り残されているみたいで悲しくなつてきた。いつもだつたら、こんなのがきあつてられんわ、って思うのに。クラスのみんなからも、おれは「パーティーぶち壊しなやツ」って呼ばれている。ショーンはクールすぎる、ノリが悪い、ボルテージ低すぎ、ときばかりは、カズとユウがあんまり嬉しそうで、オカーチャンまで涙を流して笑つているのを目の前で見ていると、こつちまでテンションが上がつてきた。で、思い切つて、おれも、カズとユウの真似して、オトーチャンの腕につかまるうとして、ドッカーンーって、タタミ・マットの上にすごいしりもちをついてしまつた。双子たちはショーンー ショーンー つて飛び跳ねて大笑いしてたし、オトーチャンもオカーチャンも大爆笑。⁽³⁾おれはなんでもないフリしてた。朝から大騒ぎだったおかげで、シャワーなしでも、ちやんと目が覚めた。

朝食に、フットンみたいながついいトーストを食べさせてもらつた。ナンのベーコン・エッグが食べたいなつてちょっとと思つたけど、フットン・トーストだけでお腹がいっぱいになつてしまつた。トーストは A していで、前歯の形がはつきり残つた。トーストなのに、なんか、米の味がした。あつたためたミルクがおいしかつた。

25

家を出る前、カバンを背負つた双子たちが靴を脱ぐ場所のすぐそばの部屋に入つていつた。薄緑色の壁にかこ

まれたタタミ・マットの部屋。大きな木の箱みたいなのがあつた。木の箱の中には、白と黄色の花が飾つてある。⁽⁴⁾母の日にプレゼントするやつだ。この花、日本にもあるんだ。 あうん、日本では、こうやって二つに分けて飾るんだ? 上の棚には、長細いものが何個か立ててある。双子のひとりが小さな棒で金色のボウルみたいなのを叩いた。リーン、つて音がした。すると、その棒をもうひとりが取り上げて、叩いた。チーンー さつきよりもずっと大きな音がした。ちょっとと形はちがうけど、これと似た音の鈴、いつもナンと一緒にいく教会もある。

神父さんがパンを配るときに鳴らすやつ。小さい頃、なんで鈴を鳴らすのかナンにきいたら、「神様はねほすけ

だから、ああやつて起こさんだよ」とつて言つてた。いつのまにか双子たちが、棒を取り合つて、タタミ・マット

の上でケンカをはじめた。壁には、キモノを着たおじいさんやおばあさんの写真がずらつと飾つてあつた。すつ

ぱえ古そうな写真。ぜんぶ白黒。一番新しさうな写真のおばあさんは、なんとなく双子たちに似ていた。へえ、

家族の写真、日本ではこんなふうに飾るんだ……でも、オトーチャンやオカーチャン、カズとユウの写真はな

い。ん? これ、ぜんぶ死んだ人の写真?⁽⁵⁾ リーンー チーンー リンー チンー リンリーンー 双子のどちらかが棒を掴むたび、思いつきり金色のボウルに叩きつけて、大きな音が鳴つた。双子たちが大声を上げる。お

れはピクッとなつて、双子たちの前の、大きな木の箱をもういちど見た。ふたつの花瓶のあいだには、なぜか大きなリングとミカンも飾つてある。壁の写真がおれを見下ろしている。カズとユウ、一体誰起こしてんだよ?

40 オカーチャンがやつてきて、双子を叱りつけたあと、木の箱のなかにある蠟燭の形をした電灯をつけた。

三人で、木の箱の前で手を合わせた。おいおい、ちょっと待つてくれよ……まさかとは思うけど、これつて、

もしかして、【 】!? おれはあわてて部屋を出た。

35

【 】

40 オカーチャンがやつてきて、双子を叱りつけたあと、木の箱のなかにある蠟燭の形をした電灯をつけた。

三人で、木の箱の前で手を合わせた。おいおい、ちょっと待つてくれよ……まさかとは思うけど、これつて、

もしかして、【 】!? おれはあわてて部屋を出た。

カズとユウに挟まれて駅まで歩いた。ふたりがべちゃくちやおれに話しかけてくる。おれの胸につるしたIDカードを指さして、そこに書かれた日本語をふたり揃つて読み上げた。

カズもユウも大爆笑

50

いる。(8) マイ・ゴーってなんだろう? 双子のひとりがお腹をよじって笑うと、背中に背負っていた革のリュックサックのような鞄の蓋ふたが開いて、ノートとか水筒とかの中身が道路にせんぶ落ちた。たぶん、こっちがカズ。ケンカの強い方。でも、ちょっとばかしおっちょいかもしれない。カズはちょっとのあいだ呆然ぼうぜんと立つていたけど、ユウはしゃがんで散らばったノートとか鉛筆とかを拾い始めた。ユウはメソメソしたところがあるけど、けつこうしつかりしているのかもしれない。

駅に着いてプラットホームで電車を待っていたら、壁に路線図が貼つてあった。ひらがなとかカタカナなら習つたから少しは読めるけど、ほとんど漢字ばかりだった。日本語しか書いていない。ホントに日本って日本語の国なんだー　すげえー　ユウもカズもあんな難しい漢字よめるんだー　マジ感動！　漢字の下には小さなアルファベットが並んでいた。「K y o t o」。

指さして、口に出して言つてみた。ローランド・ペイでは三年生から日本語を習うから、これくらいは覚える。
⑨ エウがでつかい目をして、ショーンー　おおおおーーーーー　キョートー　ベリーグッドー　つて大騒ぎした。

ショーン、エーイー！ つてカズも飛び跳ねた。それから、ふたりが英語を使い始めた。

「マイ・ネーム・イズ・カズキ」

「マイ・ネーム・イズ・ユウキ」
おれたちが学校で日本語習つてゐるみたいに、カズとユウも学校で英語を習つてゐるんだ。おれの日本語も、
※ 「I am Sean」じゃなくべ『My name is Sean』みたいに、カズとユウには「んな感じ」に聞こえてるんだろ? な。
⑩ ぱらぱらしてゐる、赤ちゃんみたいな、大人みたいな言葉。いつぶつのひで、わかりた! と思わないと、わから
ないもんだな。そのうち、本当に書いたい! とは知らない言葉につれて行かれて、ど! に行ひたのかわからんなく
なる。これって、□ B □ の皮みたいだ。料理を手伝ひてひて、□ B □ を剥いてひでナンに頬まると、
えい! まで皮を剥いていいのか、おれはいつもわからなくなる。こういう言葉を使つていて、いつまでも言ひた
ふうとにたゞり着けない! ってさうか。

ユウはもう大声出すのをやめて、カズだつて、さつきまで飛び跳ねてたのに、黙りこんでしまった。「キヨー」「それがどうした、それで何?」って顔で、ふたり捕つておれのほうを見上げている。「これは、キヨートで

70
す」、そのつづき、がこのふたりは聞きたいんだよな。ショーン、これはキヨートです、はわかつたけど、それ
がどうしたの、つて顔してる。だよな、おれだって、カズとユウに「コレハ、オーストラリア、デス」って英語

で言われても、オーストラリアがどうした、だから何？って、たぶん思う。「オーストラリア」、そのつづきがたぶん、ふたりが本当に言いたいことなんだろうな。でも、やっぱ、聞けないし、言えないし。小さい頃の言

電車が来て、双子たちと一緒に乗り込む。ホームに見送りの人なんていない。電車のドアが閉まるとき、電車から葉なんかもう忘れてしまつた。

おまけに、おれが日本に行へば、

ら降りた人の背中が魚の鱗みたいに並んでた。だれもこっち見ていない、ナンにゃい、おれが一レジと怒つてたんだ、だから、出発のときも見送つてくれなかつたんだ。おれはナンの買つてくれたナイキの靴を

80 見た。ナンは身だしなみにするべうるさい。シャツにはいつもアイロンをかけでくれる。のままでうろついたりすると額に皺をよせて怒る。膝ひざが出たズボンなんかロンガイ。このころ服があつというまに小さくなるし、靴下もすぐにアナが開くので、ナンはショッちゅう買い換かえてくれる。でも、ナンにはお金を

あんまり使わせたくない。いまは年をとつて、もう働いていなくて、国からお金をもらっているけど、たくさんじゃない。父さんからもお金をもらっているみたいだけど、ほとんど使わないで、「おまえのために取つてあるよ」って言う。おれが大きくなつて、かわいいお嫁さんをもらうまで、絶対に死ねないつて笑いながら。このナイキは高かったので、ナンは『ゴールドコインチョキン』を使ってくれた。ナンは財布の小銭入れに金色のコインを見つけるたびに、チョコレートの空き箱に入れる。半年とか一年とかすると、ちょっととした額になるので、いざとこうときとか、ちょっと高い買い物するときとかに使う。友だちはみんな、おじいちゃんとかおばあちゃんからもらつたこづかいをハイキで使うけど、おれはああいうの、できない。はやく、バイトできる年になつて、自分のお金で自分のものは買いたい。それで、もつと大人になつて働いたら、ぜつたい、ナンになにか買ってや

⑪ 窓の外の家や建物がすごい勢いで流れはじめた。ナン、いま」「うどうして? 父さんはまだLAのフライトから帰ってきてないだろうな。